

田植えは好天日に行いましょう！

1回目の代かきは、田植の2週間前までに終わるよう計画的に行う
「代かき実施報告書」を6月8日までに提出しましょう

1 代かき2回と除草剤散布

- こぼれ粃を発芽させて埋め込むため、代かきを2回とし、1回目の代かきから7日経過後に2回目の代かきとプレチラクロールを含む除草剤の散布を行うこと。
 なお、代かきを2回できない場合は、JA等に相談し指示を受けること。

<代かき体系>

代かき1回目 ⇒ **7日以上経過** ⇒ 代かき2回目：除草剤散布 ⇒ **7日後に田植**
 ※ 1回目の代かきは田植予定日の14日前には終わる必要があります。

- プレチラクロール(出芽直後の稲に除草効果あり)を成分とする除草剤は、ソルネット粒剤とエリジャン乳剤となる。

2 田植え作業

(1) 好天日に行う

- 田植えは日平均気温で稚苗13℃、中苗14℃以上の日とし、できれば日中の最高気温が20℃以上の日とする。
- 最高気温が15℃以下の場合や強風時には行わない。

(2) 品種の取り違い防止

- 他品種との混合防止のため、苗運びや田植え作業の過程では、必ず品種ごとに区切りながら作業を行う。

(3) いもち病防除

- ファーストオリゼ箱粒剤(50g/箱)を施用しなかった場合は、次のいずれかの剤を施用する。

| 薬 剤 名 | 施 用 量 | 施 用 時 期 |
|-------------|-------------|----------------|
| D r. オリゼ箱粒剤 | 50 g /箱 | 移植当日 |
| オリゼメート顆粒水和剤 | 250 g /10a | 移植時(側条ペーストに混和) |
| コープガードD12 | 20~50kg/10a | 移植時 |

(4) 栽植密度等

- 安定生産に必要な強勢茎主体の穂数を確保するため、栽植密度を70株/坪以上とする。

| 苗様式 | 目標葉数 | m ² 当株数 | 植込本数 | 10 a 当箱数 | 植付深さ | |
|-----|---------------------|--------------------|------|----------|-------|--------------|
| 稚苗 | 2.0~2.5葉 | 21.2株以上 | 4~5本 | 19箱程度 | 2cm | 3cm以上の深さにしない |
| | (無加温出芽) 3.0~3.5葉 | | | | | |
| 中苗 | 3.5~4.0葉 | 21.2株以上 | 3~4本 | 27箱程度 | 2.5cm | |

3 田植え後から活着までの管理

(1) 水管理

- 浮き苗が流入・流出しないように、水口、水尻に金網等を張って異品種の混入を防ぐ。
- 活着(通常4~5日で活着する)は、気温・水温とも高いほど早くなる。この時期は水温のほうが気温に比べて日平均で3~4℃高いので、保温効果を高めるため水深4cm程度の湛水状態を保つ。
- 活着したら浅水管理とし、水温と地温を高め分けつを促進させる。

(2) 余り苗の処分と補植の禁止

- 余り苗は、いもち病感染防止のため、田植終了後、直ちに処分すること。
- 補植は行わないこと(品種混合や出穂期のズレを避けるため)。

4 こぼれ粃からの実生苗の除去作業

- 田植後はほ場を注意深く見回り、株間や条間にこぼれ粃から発生した苗を発見したときにはすぐに抜き取る。(浮き苗についても同様とする。)
- 実生苗の除去作業は、2回行う。時期は次のとおり。

| | |
|-----|----------------------------|
| 1回目 | 田植え後2週間ころ |
| 2回目 | オリゼメート粒剤散布前(6月15日前)までに終わる。 |

5 気象情報

- 気象庁の1か月予報(4/22~5/21によると
 - ・期間のはじめを中心に寒気の影響を受けやすいため、気温は低い見込み。
 - ・降水量、日照時間はほぼ平年並みとなっている。

6 病害虫の発生予察情報

- 秋田県病害虫防除所が4月25日発表した5月の主な病害発生予報は次のとおり。

| 病 害 虫 名 | 発 生 量 |
|---------|----------|
| 苗いもち | 少ない(前年並) |
| 苗立枯病 | 平年並(前年並) |

7 代かき実績報告書の提出

- 添付している「代かき実施報告書」を品種ごとに記載のうえ6月8日までにJA等の担当者へ提出してください。

たね屋のひとりごと

- 強風時にはハウスの補強など、事前に被害防止対策を行いましょう。
- ばか苗病対策は苗の段階での抜き取りの徹底が肝心です。根からしっかり取り除き、埋没処分しましょう。

